

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38343	
事業名	ウィンタースポーツ普及振興費						
評価担当課	所属名	ス)スポーツ部 企画事業課					
	課長名	深井貴広	担当者名	浅井雄輔	電話番号	011-211-3044	
施策名	主	雪と共存した暮らしの推進					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	①料金助成②学習支援は、子どもたちがウィンタースポーツに親しむため。 ③観戦文化の醸成は、市民がスキージャンプを身近に観戦できるため。 ④屋外ウィンタースポーツの魅力発信は、コロナ禍でも密を避けやすい屋外でスポーツに取り組む機会を提供するため。				
		長期	札幌市のスポーツ文化の一つであるウィンタースポーツを「する」実施率を高める。 ウィンタースポーツを「みる」文化を定着させる。				
	取組内容	①料金助成:スキリフト(小3~6、年1回1,000円分)、スケート貸靴(小学生、年2回各300円分) ②学習支援:Aスキー学習インストラクター派遣(中学・高校・特別支援学校の授業、小学・中学の肢体不自由のある児童生徒)、B歩くスキー出前授業(小学の宿泊学習等)、C地域スポーツ指導者派遣(小学授業・中学授業へ有償ボランティア) ③観戦文化の醸成:スキージャンプ大会の観戦環境の充実 ④屋外ウィンタースポーツの魅力発信:歩くスキー、スノーバレー、スノーテニスのイベント等 ⑤札幌ウインタープロジェクト、ウインタースポーツに関するポスター、フレックカーの制作、提出					
実施結果	①料金助成:スキリフト23枚、スケート貸靴3930枚 ②学習支援:Aスキー学習インストラクター派遣66校・710人、B歩くスキー出前授業指導者派遣15校・127人、C地域スポーツ指導者派遣中学校19校・427人、小学校57校437人 ③観戦文化:大会情報の広報						
事業実施における工夫点	競技団体や索道事業者等との連携を図ることで、実情に即した有効な取組とする。						
対象者	①②は児童生徒、③④⑤は市民全般			開始	0 年度	終了	0 年度
関連法令・条例・要綱等	スポーツ基本法						
他都市の状況							

◎事業費

(単位:千円)

		令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費		137,187	48,000	145,681	52,000
うち特定財源		119,058	11,000	11,272	11,000
人工		1.4	1.9	1.9	1.7
人件費		10,080	13,680	13,680	12,240
計(事業費+人件費)		147,267	61,680	159,361	64,240
事業費の内訳	令和3年度決算	・さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成 14,659千円 ・さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業 124,197千円 ・地域スポーツ指導者活用事業 3,126千円(小1,331千円、中1,794千円) ・観戦文化の醸成 1,199千円 ・屋外ウインタースポーツの魅力発信 0円(R3のみ) ・札幌ウインタープロジェクト 2,500千円(R3のみ)			
	令和4年度予算	・さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成 22,000千円 ・さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業 10,000千円 ・地域スポーツ指導者活用事業 3,000千円(小2,000千円、中1,000千円) ・観戦文化の醸成 17,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上)		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		47%	22%	
活動指標2	指標名	ウインタースポーツ実施率(18歳~49歳・年1回以上)		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		24%	20%	
成果指標1	指標名	インストラクター及び指導者の派遣人数(累計)		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
		9,430	9,410	
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	・リフト料金助成の対象拡大による小学生のスキー体験機会の創出、市立学校のスキー学習バス増便分支援によるスキー学習の実施維持を図る取組は、コロナ禍において子どものウインタースポーツを「する」活動に寄与。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	当初事業について、実施規模としては適切であったと考える。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	・各スキー場、スケート場に協力をいただき、効率的に実施できている。 ・ジャンプ大会に関しては、競技大会の運営である札幌スキー連盟が当事業を実施することが適切と考える。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	・助成事業の認知度及び利用率について、年々向上している。事業の認知が広がることで、更に評価が高まっていくものとする。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	広報内容を更に充実することで、利用率の向上や事業内容への理解を高めていく必要がある。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	スキー学習支援事業の派遣インストラクター人数の見直し		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	子どものウインタースポーツを「する」活動、子どものから大人までのウインタースポーツを「みる」活動に対し、実施維持・促進を図る取組ができた。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 広報内容の充実を行い、利用率の向上を図っていく。		
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 リフト料金助成の利用状況を検証し対象学年の拡充を検討する。		見直し効果額 0 千円